

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	菊池 温紀
主な担当科目	情報機器演習(応用)Ⅱ(金3限)
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	情報機器演習(基礎、応用Ⅰ、応用Ⅱ)について引き継ぎ、他の教員との平仄あわせを適切に行い、品質を維持する。応用Ⅱクラスについては、プログラミングなどの新機軸を導入する。
2024年の教育に関する自己評価	目標のとおり、品質を維持することはできたと考える。 応用Ⅱクラスではプログラミングを取り入れた。難易度の設定や導入手法に課題が残ったが、興味を持った、もしくは面白いと思った学生もおり、一定の意義があったものと理解している。また、IT業界を目指したい、ITパスポート試験を受けたい、といった声も聞くことができ、決して多くはないが、ニーズがあることが分かったことは収穫であった。 また、当初予定になかった「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」カリキュラムの作成にも取り組み、認定取得に至った。当初目標を超えて取り組んだ部分と評価している。
2024年のFD活動に関する自己評価	FD研修会に参加したほか、研修会でのプレゼンテーションを1回実施した。
授業改善のために取り入れた研修内容	・情報の取り扱い方、情報の取り扱いに関する学生の認識を研修で学び、授業で触れるポイントや、重点を置いて説明するところを工夫した(全体FD研修) ・留学生など日本語の理解が難しい学生、不正行為を行おうとする学生、授業の円滑な進行を妨げる学生などへの対応方法、気を付けるべき点を聞き、授業で説明する内容を改善した(教養分科会FD研修)

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3673 教員名:菊池 温紀

1)アンケート結果に対する所見

まずアンケート回答率について、「基礎」科目で 6 割を超えているのに対し、「応用」科目では 5 割を下回っている。回答率が低い科目では、授業に対しネガティブな印象があり、そのため低い回答率に留まっているとも考えられる。スコアの観点でも「応用」科目は全体平均値を下回る結果となっているため、「応用」科目は、「基礎」科目に比べてネガティブな印象を持った学生が多いことが想定される。

Q6 について、半数以上の学生が「そう思う」の回答であったが、「あまり思わない」の回答も一定割合あった。情報機器の操作方法を扱うという特性もあるとは思うが、「お手本の操作が速すぎてついていけない」「なぜそうなるのか理由がわからない」「操作方法は一通りではないためその度ごとに違うことを言っているように感じる」といった印象を持つ可能性は想定できる。Q9 で「実践力」を選択した学生が過半となっていることから、本科目では情報機器の操作ができるようになるという「実践力」を身につけることが目的であるが、それが思うようにできなかった、と考えた学生がいる、という結果と理解している。「応用」科目は相対的に複雑な操作を必要とするものがあり、その傾向がより強く出たものと解釈している。

2)要望への対応・改善方策

授業で取り扱う情報機器の取扱手順について、上述したように、「操作方法を実際にやって見せること」「操作方法が一通りでない場合は複数の方法を列挙し、どの手順によっても問題がないと伝える」ことが重要なポイントであると認識し、継続的に改善をはかっている。

具体的には、実際にやって見せる際にここがポイントであると強調すること、画面拡大表示機能を使用すること、繰り返し行うこと、を実施している。

また、操作方法についても講義資料を充実し、授業で解説する瞬間だけでなく、後での見返しや自習でも確認できるよう改善を図っている。

3)今後の課題

前項までに記載した点は、授業の目的である、情報機器の取扱いに関する実践力を高めるための技術的な事項であり、根本的には、学生自身の学ぶ意欲をさらに高めていくことが、技術を身につけることへの意欲につながり、主体的な修得にもつながるものと認識している。このような学ぶ意欲を高めるための授業方法を試行錯誤していきたい。

具体的には、演習で作成する成果物を、より実践的なもの、学生自身が興味を持ちやすいものに設定することなどを考えている。

また、学生の多様化に応じて、講義資料で使用する日本語を平易なものにしていくこと、および、講義資料について自動翻訳技術を活用した多言語対応も検討する予定である。

以上